

藤沢久美



誰がための「投資」

ふじさわ くみ…シンクタンク・ソフィアバンク副代表。国内外の投資運用会社勤務を経て、1996年に日本初の投資信託評価会社を起業。99年同社を世界的格付け会社に売却後、2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、副代表。03年社会起業家フォーラム設立、副代表。07年「ヤング・グローバル・リーダー」に選出。法政大学大学院客員教授、金融審議会委員など公職も多数兼務。著書は『なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか』、『投資信託主義』など多数。

今、私は、ヨルダンに滞在
在中だ。世界経済フォーラム
の中東会議に参加するため
に、中東の中では平和な
国と言われるヨルダンに、
世界各国から
参加者が集ま
っている。先
進国、新興国
・途上国な
ど、さまざま
な地域からの参加者と対話
していると、「経済成長」
という言葉に込める思いの
違いに驚く。

現在の日本人は、「経済
成長」にどんな思いを持っ
ているのだろうか。投資信
託などの販売の場面では、
「経済成長」は、投資をし
て利益を出すための一つの
条件であり、GDP（国内
総生産）成長率は、株式投
資の一つの指標のようなイ
メージすらあるのではない
だろうか。しかし、新興
国、特に途上国では、経済
成長は自らの人生を左右す
る大切な「目的」だ。

国民が自由と未来を 手に入れるお手伝い

平和なヨルダンにも周辺
国から難民が押し寄せ、テ
ロリストの侵入の危険もあ
る。そこで語られる安全保
障は、「経済成長による雇
用の未来なのだ。」
こうした違いを目の当た
りにしたとき、短期的な投
資というものが、いかに無
責任なものであるかを痛感
する。一人ひとりの国民
が、自分自身の人生を賭し
て働くことによって経済成

「新興国へ投資」の意味

用創出」だ。働き口を見つ
けた人は、簡単に職を失う
ような行為には走らない。
雇用創出はテロリストを生
み出さない一つの大切な手
だてだという。また、難民
キャンプの学校で学ぶ子供
や職業訓練を受ける大人た
ちは、職を得て自由を獲得
したいと言い、自分の未来
を自分で決めたいと願って
いる。

こうした国々では、経済
成長とは、一人ひとりの国
民の悲願を実現するための
「目的」であり、平和のた
めの「条件」になっ
てい
る。経済成長イコール自分

長が生み出されているこ
うした国々への投資は、経済
成長を加速し、国民の自由
獲得の後押しになるかもし
れない。当然、政治的な壁
などによって、われわれの
投資がそのまま彼ら国民の
幸せにつながることは限ら
ないが、子供を学校に入れた
という思いで、必死で職
業訓練を受け、職を求める
人たちの姿を思えば、その
国の情勢を注視しながら、
少なくとも数年の単位で、
投資に取り組むべきだと思
う。

他の場所に住む人が「儲
けるための新興国投資」で
はなく、そこに住む人の
「自由のための新興国投
資」へと意識を変えてみた
い。

(5月中旬執筆)